

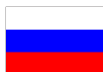
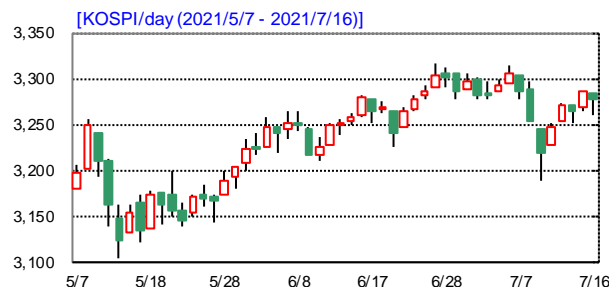


【韓国】 総合指数は週間で1.8%高と3週ぶりに反発、コロナ感染拡大が懸念材料

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.8%高と3週ぶりに反発。週明け12日は前週末の米株高を好感した買いが入り、上昇幅は今年5月18日以来、約2カ月ぶりの大きさとなった。13日は米国の経済指標発表を前に様子見ムードが広がり、上値は重かったものの、中国の好調な経済指標を受けて続伸。14日は新型コロナウイルスの国内新規感染者数が過去最多水準になっていることが嫌気されたほか、米国の量的緩和が早期に縮小されるとの警戒感から反落。15日は韓国銀行（中央銀行）が政策金利を市場予想通り過去最低の0.5%に据え置いたことで買い安心感が広がった。16日は米ナスダックの下落を受けて反落し、週の取引を終えた。今週も引き続き新型コロナウイルスの感染状況が懸念材料。経済指標では21日に6月のPPIが発表される。

▼指数チャート

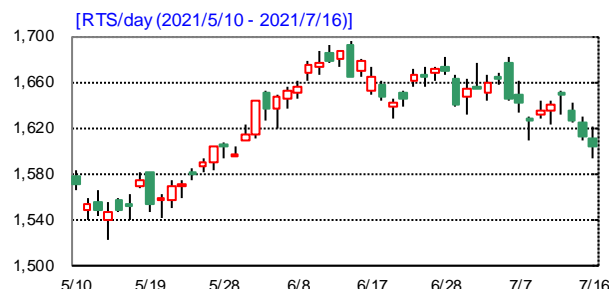


【ロシア】 RTS 指数は2.0%安と3週続落、今週はエネルギー株が相場をけん引か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.0%安と3週続落。週初に上昇したものの、原油安を受けてエネルギー株が下落し、指数を押し下げた。週前半は欧米株高やルーブル高を背景に続伸したが、原油相場の大幅な反落で14-16日に3日続落。RTS 指数は16日に1603.10ドルで取引を終え、5月31日以来、約1カ月半ぶりの安値に沈んだ。ブレント原油相場は前週末の75.55ドルから16日に72.34ドルまで下落し、73.59ドルで終了。ルーブルは対米ドルで0.4%上昇した。個別では鉄鋼のセヴェルスターリが2.4%、ノボリペツク製鉄所が2.0%上昇した一方、エネルギーのガスプロムが5.3%、ノバテックが4.7%、ルクオイルが4.4%、タトネフチが4.3%下落した。今週は原油相場の反発が期待され、エネルギー株が相場をけん引か。

▼指数チャート



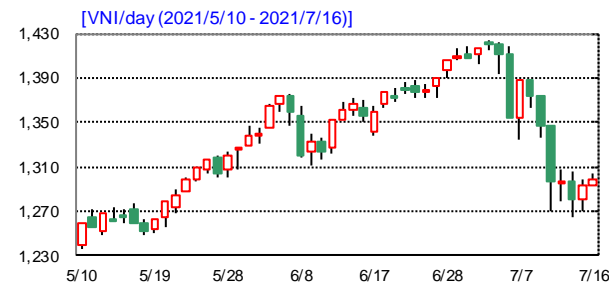
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で3.6%安と大幅続落、今週は押し目買いで反発か

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は3.6%安と大幅に続落。コロナ感染拡大が嫌気された前週の流れが続き、週初にパニック売りとなった。前週に5.1%安と大幅反落した指数は、週明け12日もパニック売りが続き、指数は前週末比3.8%安。13日は小幅に反発したが、14日は1.4%安と再び下落した。ただ、15日は売買高の減少が続く中、1.1%高と反発。16日も優良株が買われ、0.4%高と続伸した。指数は14日に1264.68ポイントまで下落したものの、16日に1299.31ポイントまで下げ幅を縮めて引けた。個別では食品加工のマサン・グループが3.1%上昇した一方、金融のテクコムバンクが8.8%、ベトインバンクが7.8%、ベトコムバンクが6.6%、不動産のピンホームズが3.1%、ピングループが2.6%下落した。今週は押し目買いで反発が期待される。

▼指数チャート

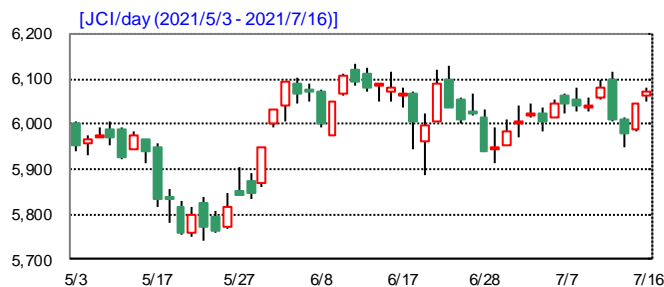


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、6月の輸出額は前年同月比 54.5%増

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と 4 週続伸。週後半の上昇が奏功した。週初の 12 日は反発したものの、13 日は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限を受けて、中央銀行が前日に今年の経済成長率見通しをこれまでの 4.6%から 3.8%に下方修正したほか、感染者数の増加も嫌気され、指数は前日比 1.1%安と反落。14 日は終値で 2 週間ぶりに 6000 ポイントを割ったが、15 日は 6 月の輸出額が前年同月比 54.5%増と市場予想を上回った効果で前日比 1.1%高と反発すると、16 日は続伸して取引を終えた。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。20 日は巡礼の日のため休場となる。

▼指数チャート

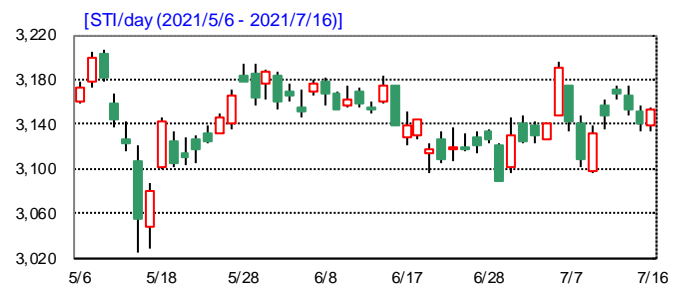


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%高、6月の非石油地場輸出が好調

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%高と 3 週続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 12 日は前週末の NY ダウが過去最高値を更新した流れを引き継ぎ続伸し、13 日も買い優勢の展開が続いた。14 日は 4-6 月期の GDP 速報値が前年同期比 14.3%増とほぼ市場予想通りだったものの、米国のインフレ懸念の広がりが売り材料となり反落した。15 日は国内の新型コロナウイルスの感染者増加が嫌気されて続落したが、16 日は 6 月の非石油地場輸出が前年同月比 15.9%増と好調だった効果で反発して引けている。今週は 23 日に 6 月の CPI が発表される予定。20 日はハリヤハジ（聖地巡礼祭）のため休場となる。

▼指数チャート

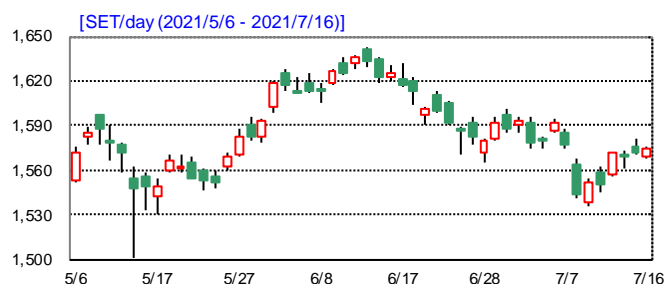


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%高、追加経済支援策の閣議承認を好感

SET 指数は週間で 1.4%高と 5 週ぶりに反発。新型コロナウイルスの感染者数が高止まりする中、追加経済支援策の閣議承認が指数を押し上げた。週初の 12 日は、感染拡大を受けて中央銀行が今年の経済成長について予想を下回る可能性を指摘したことに加え、バンコクなどで事実上の都市封鎖が始まった影響で指数は反落。一方、13 日は 420 億バツ規模の経済対策が閣議で承認された効果で前日比 1.4%高と反発すると、その後は週末まで狭いレンジでのみ合いが続いた。今週は 21 日に 6 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。バンコク銀行を含む大手行の 4-6 月期の決算結果にも注目が集まりそうだ。

▼指数チャート

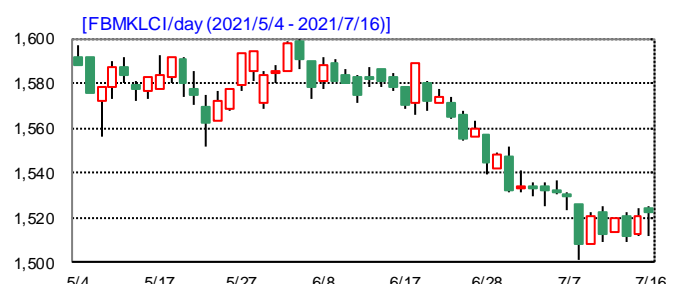


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、方向感に乏しく不安定な値動き

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%高と小幅ながら 4 週ぶりに反発。方向感に乏しく不安定な値動きが続く中、週後半の上昇が指数を支えた。週初の 12 日は、5 月の鉱工業生産が前年同月比 26.0%増と堅調だったものの、政局と経済の先行き不透明感の高まりに加え、新型コロナウイルスの新規感染者数増加が嫌気されて指数は反落。その後は一進一退の値動きとなり、15 日は前日のパウエル FRB 議長の発言を受けて、米国での金融緩和が長期化するとの見方が広がった効果で反発した。16 日は小幅に続伸して取引を終えている。今週は 23 日に 6 月の CPI が発表される予定。20 日はハリヤハジのため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。